

平成 30 年度 墨田区立小梅小学校 経営報告書

平成 31 年 3 月 19 日

学 校 目 標	○深く考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子
目 指 す 学 校 像	小梅小学校に関わる人にとって「価値ある学校」を創造する ○子供が、自分の成長を感じる学校 ○教職員が、生きがい・行きがいを感じる学校 ○保護者が、安心・安全に思い通わせたい学校 ○地域が、誇りに思える学校
目 指 す 子 供 像	○よい習慣（生活・学習・運動）をみにつけた子
目 指 す 教 師 像	◎児童とともに「明るく元気で爽やかに」毎日を送ることができる 小梅小学校の 教師集団 をめざす ① 45 分間の授業を毎時間大切にし、今日を充実して生きる 今日師 ② 児童の心により添い、思いを受け止め心を開き、気持ちを通じ合わせられる 響師 ③ 毎日の児童の成長を、地域住民・保護者とともに喜び、ともに歩み続ける 共師 ④ 教育公務員として信念をもち、責任ある行動を取り、高く強い志をもった 強師 ⑤ 学校運営を常に自己の課題として受け止め、組織の一員として力を合わせられる 協師 ⑥ 1 日 1 日の指導を振り返り、確実に自己を高め努力し、児童の手本となれる 鏡師 児童・保護者・地域住民から慕われ尊敬される 教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、子供に確かな学力を育てるために、分かりやすい授業の実施に努めているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎・基本の確実な習得」を図るには繰り返し学習が必要である。家庭学習の定着を 100%にするために、家庭学習週間の取組を年 2 回実施し、自学の習慣化につなげていく。 教員の資質能力の向上を目指した校内研究を一層充実させる。 学力向上の取組（校長講話作文、俳句作り、朝学習、家庭学習がんばり表）は、来年度も丁寧に取り組んでいく。 	A	A
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーター・特別支援教育専門員・巡回指導員・SC との情報交換・協議を密に行い、個に応じた適切な指導ができるようにする。 特別支援委員会を年 3 回、特別支援教育の研修を充実させ、 	B	B

様式 4

			<p>教職員の資質能力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎週金曜日を定例会と位置づけ、SC, 特別支援教室専門員を交えて情報交換を行うとともに、同一歩調での指導を徹底する。 		
	学校は、子供の将来の自立に向けた進路指導・相談活動に取り組んでいるか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園・こども園・保育所から中学校までを見通した指導や幼児・児童・生徒同士及び教員同士の交流・連携の充実を図る。 年間通じて、夢や目標をもつこと、実現のために努力している子供を褒め称え自尊心や自己肯定感を醸成していく。 	B	B
	学校は、教員の指導力・授業力を高めるために組織的に取り組んでいるか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究（研究授業4回）、授業観察（3回）を通して、授業力を高めるための研究や指導を行っていく。 計画的なOJT（年10回以上実施）や指導教諭の授業参観等を通して指導力の向上に努める。 	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	校内研究の成果が学力向上に繋がった。特別な支援を必要とする子供に対しての組織的な支援は引き続き丁寧に行っていただきたい。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	学校は、子供の問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 子供の問題行動への対応は担任一人で解決しようとせず、複数の教員を交え保護者と話し合いをもつ。困難な課題については管理職に相談し、その日の内に保護者に伝えることを原則として、迅速に対応していく。 校長講話、学校だより、いじめ防止授業地域公開講座等、保護者向けの「いじめ防止に向けた学校の取り組み」を年間3回以上発信し、いじめに対する取り組みの理解・協力を得る。 	B	B
	学校は、子供が基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間関係を作るための心の教育を行っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 「挨拶の意義・大切さ」を理解させ、実践に活かせる取組を工夫した。全校朝会で意図的に褒めたり・価値づけたりする機会をつくりながら挨拶の定着を図る。 保護者による学校評価の肯定的意見は66%とやや低く、「健康貯金カード」など家庭と連携した取組の充実を図っていく。 	C	C
	学校は、子供の安全を確保するための取組を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・地域と連携した防災教育を推進していく。「自分の命は自分で守る。」ためのノウハウが身に付くように、繰り返し訓練が必要である。 「人権プログラム」「安全プログラム」「いじめ防止プログラム」「使命を全うする」を随時活用し、組織的対応を原則としていく。 	A	A
	学校は、子供や保護者からの意見や要望を把握し、教育活動の点検や改善に役立っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 前後期2回の保護者からの学校評価を受けて、肯定的な項目はさらに強化できるように、否定的な項目に関しては解決策を講じて、保護者会で説明した。 保護者からの自由記述への丁寧な回答に努める。 	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	「安全・安心」を踏まえた経営方針が徹底されている。さらに地域・保護者と連携した防災教育の推進に努めてほしい。			

様式 4

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	学校は、管理職の経営方針に基づき、組織的な教育活動・学校運営を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「よい生活の習慣化」「安心・安全」を基調とした学校運営を、教職員間で共通理解を図りながら推進してきた。 ・様々な機会を繰り返し、教職員・保護者・地域に対し経営方針を周知していくようにする。 	A	A
	学校は、子供の実態に合わせた具体的な目標の設定及び評価を適切に行っているか。	B	<p>【学力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「算数科における思考力・表現力の育成～主体的・対話的な学びを通して～」をテーマに研究に取り組んだ。研究の成果が学力向上に繋がった。他教科でも、主体的で対話的な学びの実現に向けての授業改善に努めていく。 <p>【体力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果を分析し、投力に関しては体力の向上がみられた。握力に関しては課題がある。課題を意識し、継続的な「一学級一取組」「体力向上タイム」の充実に努める。 	B	B
	学校には、適切な教育活動が行える環境・設備等が整えられているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の ICT を活用した授業展開も日常化している。更に ICT 機器の老朽化等の問題が出てきている。整備に必要な予算が必要。タブレットを活用した授業の実現は来年度の課題とする。 ・図書館地域ボランティア「うめのみ」・図書室整備ボランティアが定期的に活動し、環境は整っている。「本好き」な児童は、80%を達している。 	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	「よい生活の習慣化」「安心・安全」に向けた具体的な策を講じて、来年も重点的に取り組んでいただきたい。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく伝えているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校教育アンケート」の回収率は88%と高く、保護者の学校に対する、関心の高さ・期待感が伺われた。真摯に受け止めていきたい。 ・ホームページの更新・学校だより・保護者会の内容の充実・正門掲示板の更新等、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく発信するための工夫を行った。 ・緊急メールを適度に配信し、学校情報・児童の安全情報を保護者に迅速正確に伝えることができた。保護者からの苦情・要望は無かった。 	A	A
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得て教育活動を進めているか。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の働き方改革の推進のため、教育課程外の対外的なスポーツイベントの取組縮小化に関しては、更に保護者の理解が得られるような説明を繰り返し行っていく。 ・夏の町会ラジオ体操、墨中育成委員会盆踊り、地域祭り、自校の小梅まつり、学校に泊まろう等々地域町会主催の行事には、教員が負担にならない程度に役割分担を行い計画的に参加してもらった。 	C	C

様式 4

	学校関係者評価委員会の意見等	学校はよくやっていると思う。引き続き子供のために取り組んでいただきたい。			

2 平成 30 年度学校評価のまとめ

学校に対する信頼はかなり厚く、その信頼に応えられる教育を推進していかなければならない。子供・保護者と地域・教職員ともに「三方よし」の評価を目指して、開かれた学校と家庭・地域との連携を大切にしながら質の高い教育の推進に邁進していきたい。

以上の通り報告いたします。

墨田区立 小梅小学校 校長 荒井 令子 公印